

展開図 a | Scale 1:100

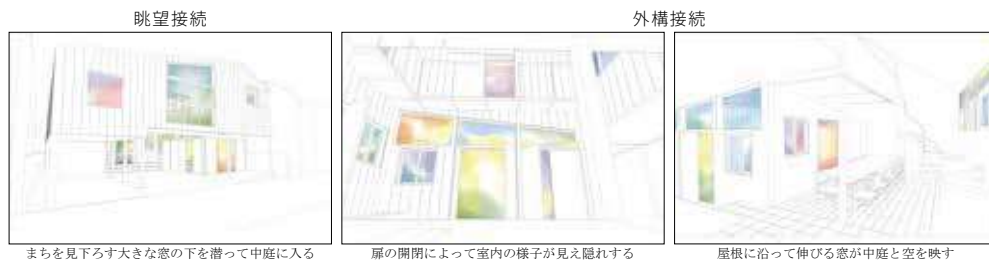
分離と接続の住宅 公室の二極分離によって多様化する空間接続

0. はじめに

日本の住宅は、可変的で自由度の高い空間から、「食寝分離」「寝室分離」「公私室分離」と居室の分離によって生活の質を向上してきた。しかし現代では、都市機能の充実によって資金さえあれば最早都市で生活できる環境が広がっている。

吉岡賞受賞作品の分析から得た多様な空間接続形式と、家族を守る「家族圏公室」都市を引き込む「都市圏公室」という2つの傾向を踏まえ、住宅が持つ豊かさを思考する。敷地は吉祥寺のサンロード商店街を抜けた住宅地。吉祥寺は駅周辺から都市計画道路沿いに伸びる商業地域と、一本入ると閑静な住宅地が広がる住居専用地域に明快に分離して計画することで、互いに住み分けながら発展した街である。

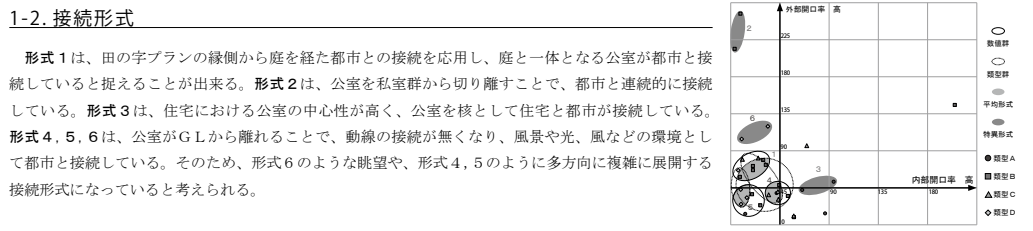
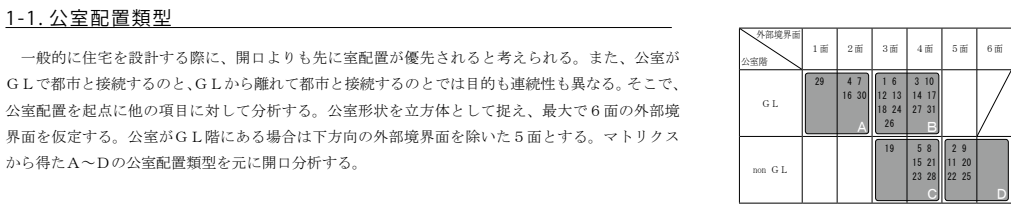
私が設計するのは、生活機能が店舗機能と共有される3つの住宅。都市領域が住宅の玄関口から内部まで入り込み、周辺住民を招き入れる空間的奥行が生まれる。多種多様な住人の生活領域を周辺との分離によって守りながら、空間と機能の接続によって形を変えて現れる接客空間が、現代における住宅での生活を彩る場所となる。

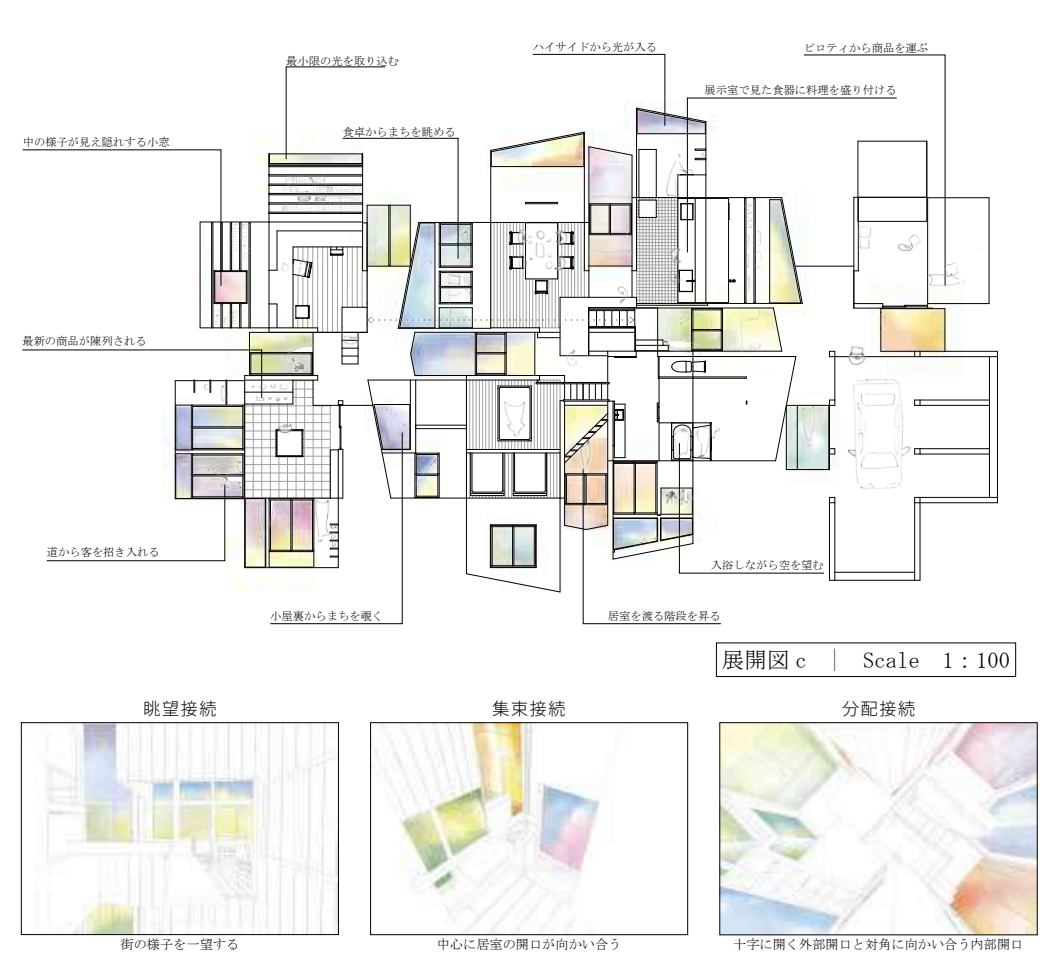
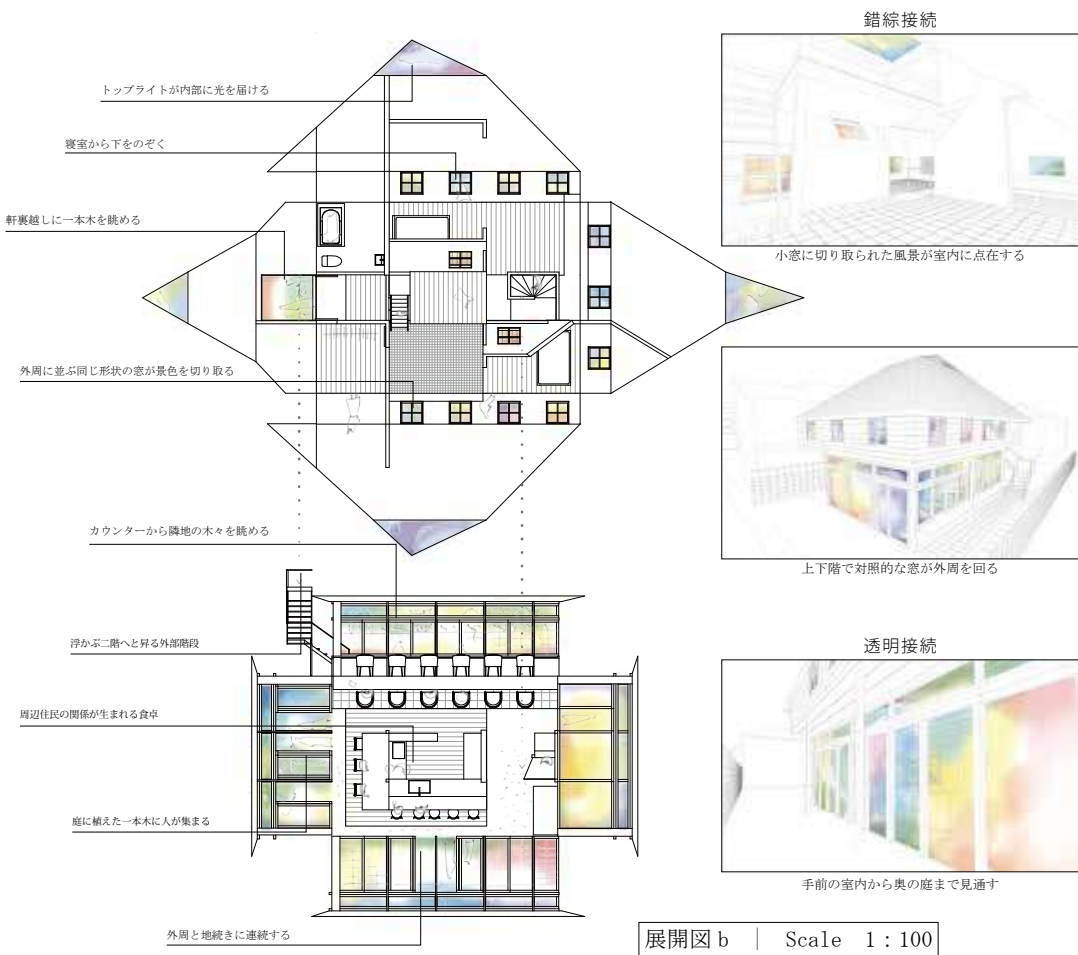


まちを見下ろす大きな窓の下を潜って中庭に入る (Peeking through a large window overlooking the town and entering the courtyard below) | 扉の開閉によって室内の様子が見え隠れする (Indoor appearance is visible and hidden by door opening/closing) | 屋根に沿って伸びる窓が中庭と空を映す (Window extending along the roofline reflects the courtyard and sky)

1. 研究 現代住宅の空間接続 吉岡賞第1〜30回の全57作品の中から、専用住宅31作品を対象とし、公室配置の類型を起点に、面積、内部開口、外部開口分析する

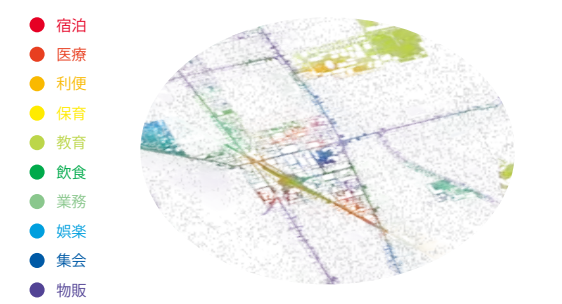
作品名	no. 1	no. 2	no. 3	no. 4	no. 5	no. 6	no. 7	no. 8	no. 9	no. 10	no. 11	no. 12	no. 13	no. 14	no. 15	no. 16	no. 17	no. 18	no. 19	no. 20	no. 21	no. 22	no. 23	no. 24	no. 25	no. 26	no. 27	no. 28	no. 29	no. 30	no. 31
設計者	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	三原まゆみ	
公室配置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
面積	12.5	15.2	18.7	21.3	24.8	28.1	31.5	35.2	38.9	42.6	46.3	50.1	53.8	57.5	61.2	64.9	68.6	72.3	76.0	79.7	83.4	87.1	90.8	94.5	98.2	101.9	105.6	109.3	113.0	116.7	
内部開口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
外部開口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31





2. 敷地 商住分離された吉祥寺

敷地は吉祥寺のサンロード商店街を抜けた住宅地。吉祥寺は駅を中心に4つの大型商業施設を配置することで「回遊性の高い街づくり」を実現している。用途地域を見ても、駅を中心とした都市計画道路上に伸びていく商業地域と、周辺に広がる住居地域とが明快に分離されていることが分かる。それぞれの領域を分離することで、商業地域には大規模から小規模に至るまで店舗同士の相互作用を与え、住居区域には人ごみから外れた静かな居住環境を生み出している。互いに干渉しすぎないための区域の分離が、異なる環境として特化するために有効な手段として機能している。

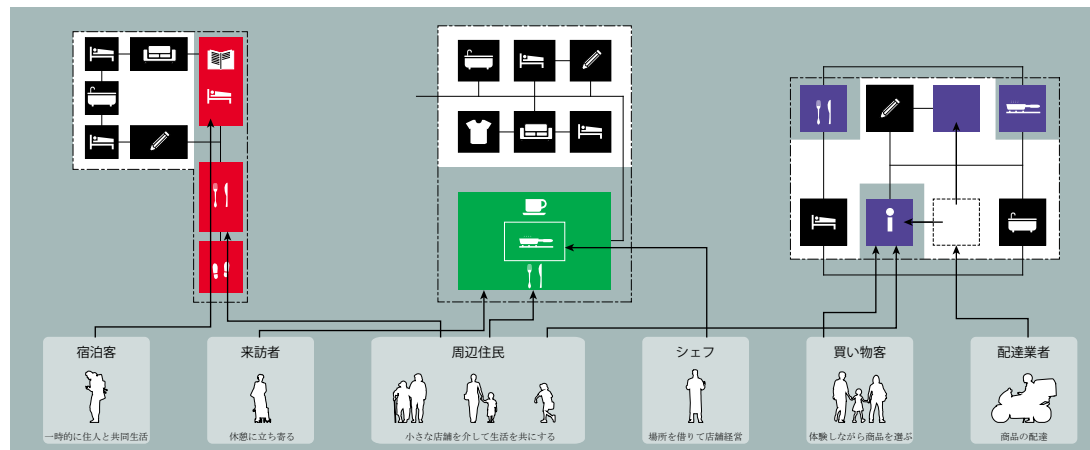
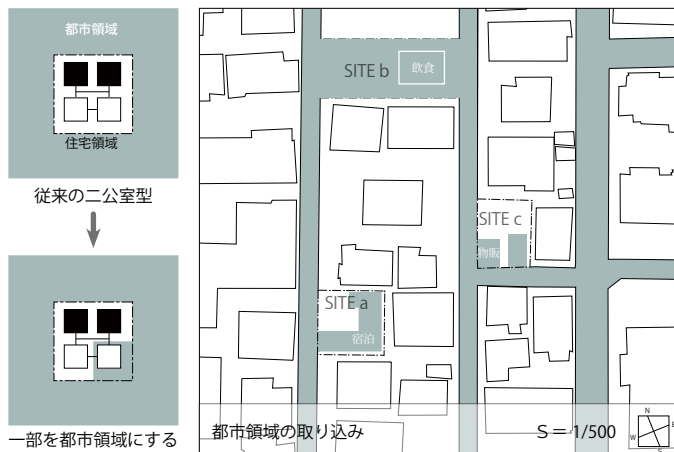


3. 設計 生活機能と店舗機能の共有

都市圏公室は住宅での生活行為を店舗としての機能と共有することによって、空間的連続性だけでなく、日常的に住宅の一部が都市との関係性を持つ状態を構築する。

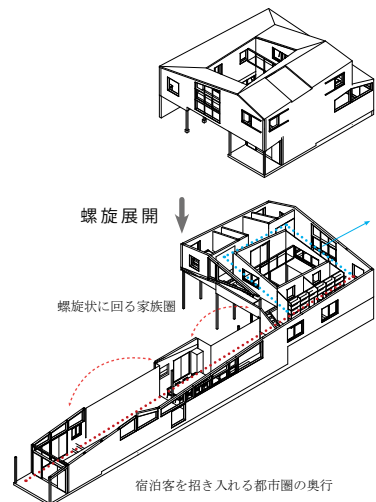
今までの住宅と都市機能が複合した併用住宅とは、住宅の生活行為と都市機能を共有する点で異なる。従来の二居室型を発展させ、公室を住宅の枠組みから外して都市領域とすることで、住宅と都市空間が接続される。

生活行為から発展した都市機能を、再び生活行為と共有することによって、都市の逃げ場として閉じてきた住宅の枠組みを解体する。

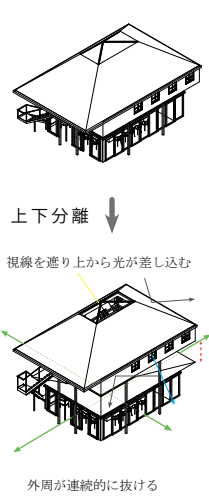


空間分離のコンセプト表現

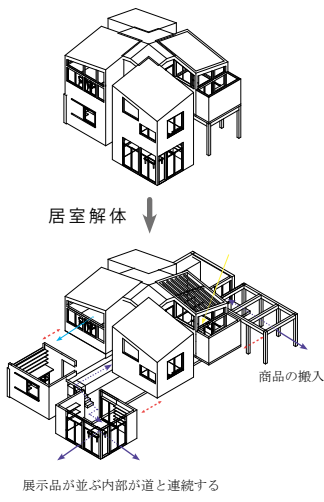
「距離」による空間の分離



「層」による空間の分離



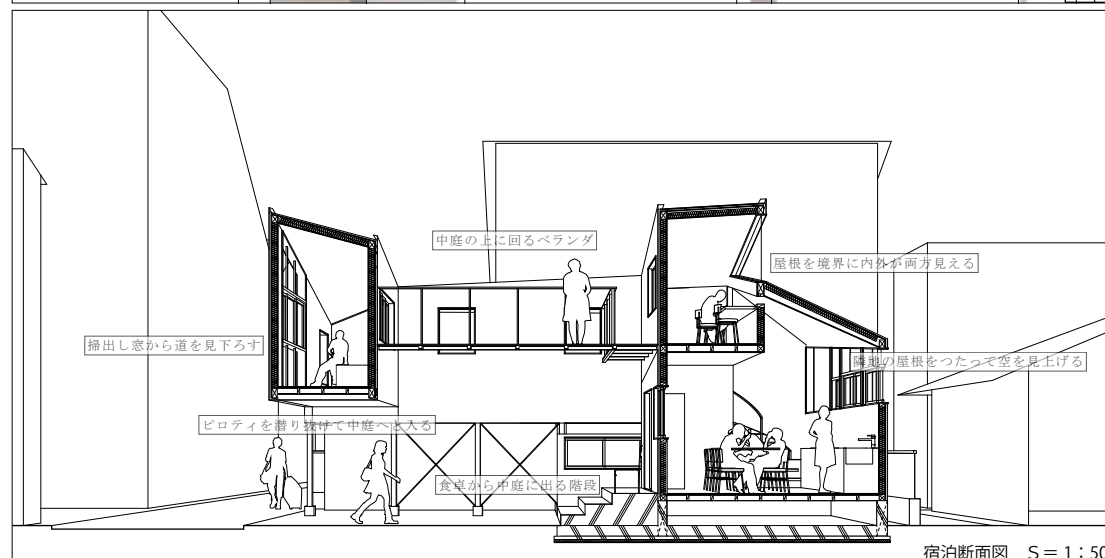
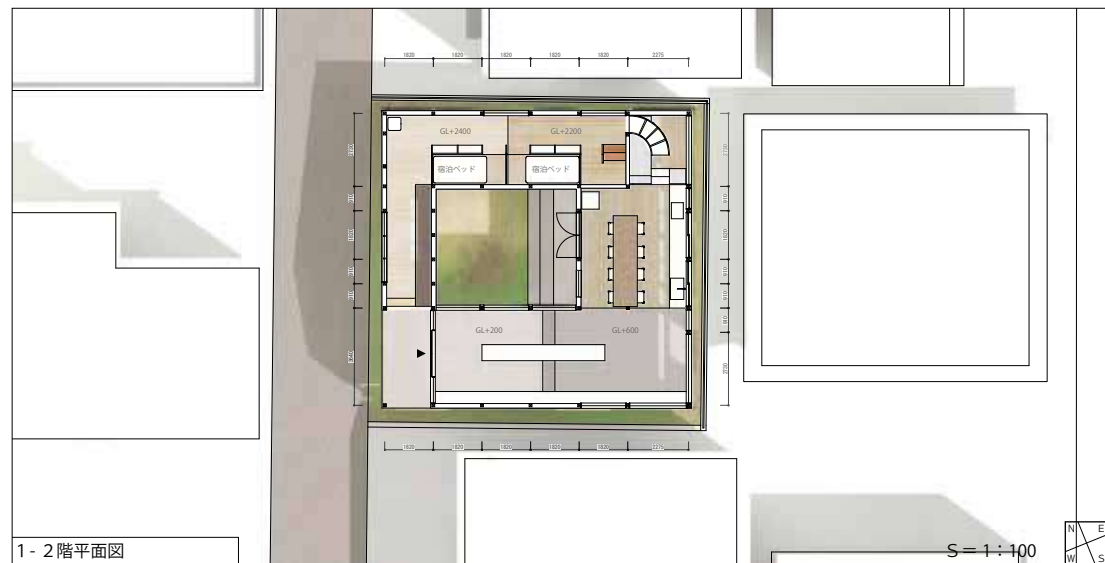
「室」による空間の分離



SITE a 宿泊機能

長い奥行に並んだ様々な開口が内部空間に緩やかな変化を与える

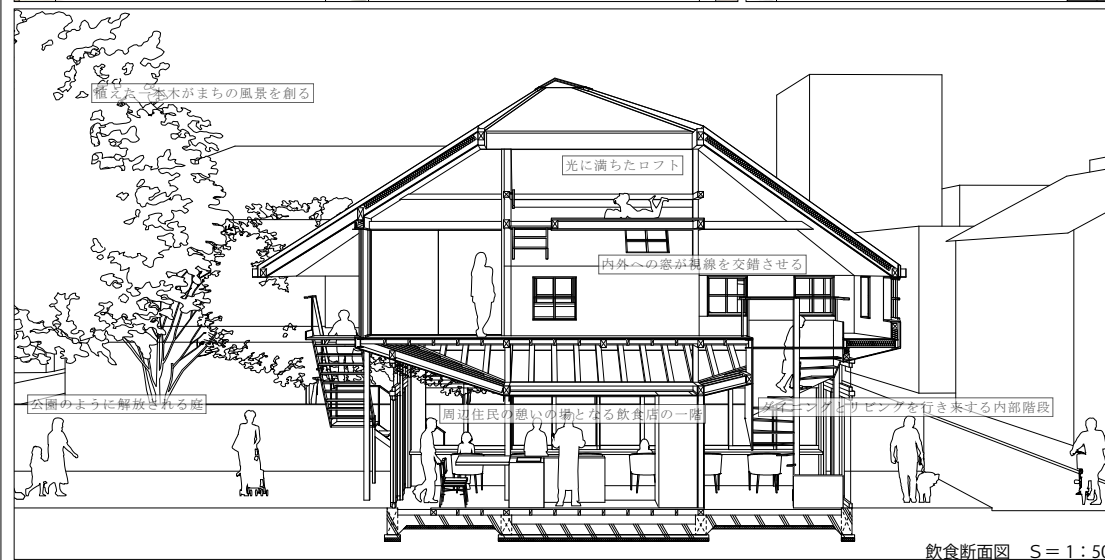
30 m以上の距離を持った奥行きのある公室が、敷地境界に寄り添いながら折れ曲がって巻いていく。宿泊客と住人との共同生活をするこの住宅は、距離を持った公室によってそれぞれの生活空間が緩やかに変化する。外から人を招き入れる際にも、この折れ曲がった奥行は、生活において隠れたい寛ぎの場所を維持することができる。1階と中庭をつなげて使うことで、住人と周辺住民、宿泊客が集まってホームパーティすることもできる。曲がる度に空間性が切り替わり、都市圏から家族圏へと徐々に変化していく。



周辺に対して外壁をつくらずに受け入れるCafe&Barとしての1階と、屋根に覆われて上から光が差し込む2階に明確に分離することでそれぞれの空間性の違いを生み出している。都市圏公室は住人の団らんの場所でありながら、周辺住民とも食事を介して交流する場所になる。対して家族圏公室は周辺の視線から守られた内向きの室であり、家族という集団が都市から分離することによって安心できる生活環境となる。



2階平面図 S = 1 : 100



飲食断面図 S = 1 : 50

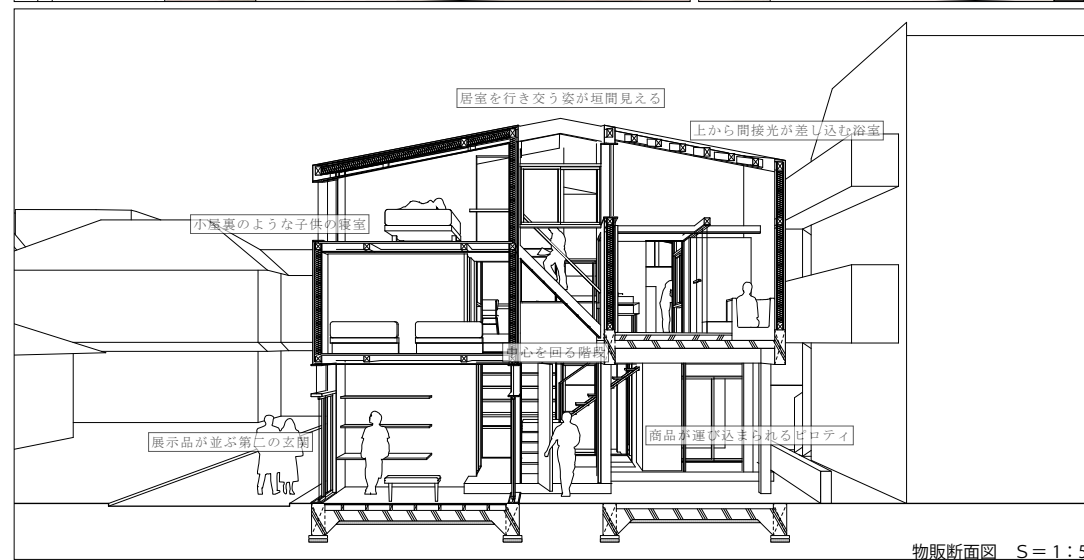
公室が複数に分離することによって、各公室を自由に行き来しながら、集まったり離れたたりすることができる。3つの都市圏公室は物販店としての機能を持ち、新しい器や調理器具などの生活用品が展示される場所から、実際に使って調理する場所、食事する場所へと段階を追って体験する。買い物客や周辺住民と、日々使っている物を介して交流が生まれる。2つの家族圏公室は、それぞれ仕事や勉強をしに集まる空間と、降り注ぐ光に満ちた水回り空間。空間性の異なる小さな公室群を中心の吹き抜け空間が接続する錯綜的な住宅。



1階平面図



2階平面図 S = 1 : 100



物販断面図 S = 1 : 50